

ブルー水素製造・輸送を最適化

大日本ダイヤ コンサルら 三笠市で検証

大日本ダイヤコンサルタントは、北海道三笠市で石炭と木質バイオマスによる混合ガス化や天然ガス、石炭から取り出す「ブルー水素」の製造、

最適な輸送方法、利用方法の検証に乗り出す。同社を含む5者が新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の2023年度「水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発」に共同提案した実証事業が採択された。事業期間は25年度まで。

採択されたのは、▽大日本ダイヤコンサルタント▽三笠市▽室蘭工業大学▽エア・ウォーター▽カワテックスーの5者が提案した「三笠市H₂UCGによるブルー水素サプライチェーン構築実証事業」。北海道三笠市の地域特性を活用し、低コストによる水素製造の達成に向け、多様な手法によるエネルギー生産の取り組み「H₂UCG（ハイブリッド型石炭地下ガス化）」

石炭と木質バイオマスの混合ガス化により、水素製造プラント向けの原料ガスを

ガス量は100N立方メートル、混合ガス量は130N立方メートルを目指す。生産ガスからの水素精製や、CO₂分離回収によるブルー水素製造技術の実証に当たっては、H₂UCGにより生産したガスからCO₂を分離・回収し、さらに水素を分離・精製する技術を確認をする。

でブルー水素サプライチェーン（供給網）として目指す商用モデルを構築する。大日本ダイヤコンサルタントは生産したガスからの水素精製や二酸化炭素（CO₂）分離回収によるブルー水素製造技術の実証、三笠市内での最適な水素サプライチェーンの構築などを担当する。石炭と木質バイオマスによるガス化技術の実証では、UCGによるガス化、

